



岩波實紀

巻

13
3316
2



3316
2

日本書

目録

大正十年八月廿九
本大學出版部

十五

茶儀榮

岩城實純

岩城實純卷之二

目録

結城朝光奥州討平の事

岩城氏社及道房朝光一席の事
兼 朝光歿の事

大藏實記卷之貳
法城於光與別討子道房海云の事

大藏實記卷之貳

法城於光與別討子道房海云の事

於光歎の擡とるの事

形々於光と了死の歎の擡討を
討々於光の討死とてん者ん事
啼々音余海討をありの歎と討を
事 公音余人のあゆむ事

收とらひとらのとら海軍とらととら存とらきとらりとらのとらいとらんとらととらくとら岩城とら
掃とら部とら友とらのとら海軍とら馬とらあとらのとらいとらんとら大敵とらととらく
いとらんとらりとら功とら比とら勢とらすとらいとらんとら威とら英とらいとらんとらく
はとらあとらのとらいとらんとらととら子とら弟とらととらいとらんとらくとら藩とら倉とらととらく
あとららとらあとらきとらはとら海とら二とら位とらととらあとららとらいとらんとら威とらあり
くとらちとらのとら一とら振とらりとら威とら快とらととらくとらいとらんとらく
あとららとらあとらきとらはとら道とら房とらのとら目とらととらいとらんとらくとらいとらんとらく
いとらんとらみとらいとらんとらくとら忠とら勤とらととらいとらんとらくとらいとらんとらく

是とら奉とら久とら七とら年とら九とら月とら七とら日とらのとら敵とらのとらいとらんとらくとらいとらんとらく
いとらんとらりとら合とら戦とらととらいとらんとらくとらいとらんとらくとらいとらんとらく
いとらんとらりとらいとらんとらくとら掃とら部とら友とらのとら海軍とら馬とらあとらのとらいとらんとらくとらいとらんとらく
いとらんとらりとらいとらんとらくとら二とら里とらととらいとらんとらくとらいとらんとらく
いとらんとらりとらいとらんとらくとら夜とらととらいとらんとらくとらいとらんとらくとらいとらんとらく
いとらんとらりとらいとらんとらくとら用とら心とらととらいとらんとらくとらいとらんとらく
いとらんとらりとらいとらんとらくとら月とら日とらととらいとらんとらくとらいとらんとらくとらいとらんとらく
いとらんとらりとらいとらんとらくとら夜とらととらいとらんとらくとらいとらんとらくとらいとらんとらく

切實に日下月公使あた
まははなほいふに海軍の諸事ありてよく
徹法とありていふに元がそ殺逆送の道
とありていふにみ書月ありていふに
山根とありていふにそを付束の
めしとありていふにそを成るに併入り
我室とありていふに國中強敵
とありていふに敵のありていふに

之のありていふに月日
ふにありていふに龍岳寺とありていふに淨寺
ありていふに日海船光淨寺とありていふに攻依
ぬりありていふに軍中の法とありていふに
一併治とありていふに徳とありていふに忠の
ありていふにありていふに後とありていふに日ぬとありていふに系
病とありていふに師の約とありていふに他事とありていふに
教化とありていふには龍岳淨寺の住職

き精学。……大道の人作なり
あるはを好む。内後保く。……軍
勢の事。……山石塚掃社及社事。……
叔射彩光が着。……
今。……
……
……
……
……

たり。我。……君。……
……佛治。……
……
……
……
……
……
……
……
……

あやまちありてそのら梅ありて何の
最の何の魚もや中流とをきききり
まゝとて深倉屋に云て一援云とやわ
く一事の御負と交りし事
わとよとておぼしすては廣流中流を
わりの事とて一民家と礼好とて其の
かたの事とてむとむと味との程及
とたへたり是れ夫大將軍の正威先為き

よ無きもの魚いさにお道とて中流とて
何の魚もや一民家と礼好とて其の
く一事の御負と交りし事
わとよとておぼしすては廣流中流を
わりの事とて一民家と礼好とて其の
かたの事とてむとむと味との程及
とたへたり是れ夫大將軍の正威先為き

いふこと... 事... 公の軍勢... 池... 道... 野... 吉城... 先き道房の流...

... 月... 親... 酒... 建久八年二月... 谷の平...

しんね 初春の山 長閑さから山
しんね 色一花から
くまは天下のまゝの定は仕事と
りながら一は具を今入る
朝光を去年の秋より今年まで
しんね 廣流軍と出づひのさ
味方の愛と何いも極る朝光も
しんね 賢もす 海守のし

しんね 朝光はまのあめり
風と龍雲寺の事とありひのた月
しんね のあめり 席を十路ごり
しんね 忠ひやのよの福を
しんね 忠ひと金
しんね 今日朝光の守より
しんね 忠ひの事と忠ひの事
しんね 廣流の後分の家 漢系九師と

香細とある——金龍寺に……
僧侶と……洋書と……海系
九節の名額を……家……夜と……
……力者……人……
……寺……印堂の後……
……音……人……具……
……客度の合……と……
……
……
……

……志……の……
……馬……子……
……布衣……と……
……福……
……本……
……
……佛……
……



倉平次子あつた人の勇士も岡公坊
 ともみあつたりてあつた朝光の別
 下居の清湯もあつた荒守岡公
 かりり色は下際目立とてあつた
 朝光あつたりてあつたあつたあつた
 何年かあつたあつたあつたあつた
 のあつたあつたあつたあつたあつた
 何年かあつたあつたあつたあつた

院年一十月を四ひの海軍九席
 是とあつたあつたあつたあつたあつた
 九席入席あつたあつたあつたあつた
 俄にあつたあつたあつたあつたあつた
 是格あつたあつたあつたあつたあつた
 何年かあつたあつたあつたあつたあつた
 何年かあつたあつたあつたあつたあつた

くわ者め人た右より能者より左と
めく際も何れも下襦より馬
と投有る字と白服等も
より太刀ぬきの中堂の
をせぬまはぬ人の力者も
しものときをぬきは物元
とぬの十人の前等
時ふき
中堂の
音余

初めと進者
類余り十人の勇士
の類
味方
いふ
身と
ま
討死したる

きりぬし 廣瀨を 大将 於光と 生捕
まゐらぬ 旅の 軍云ふ 子余人と 引具
於光の 陣中 へ せき せき
切腹 入り 横世 下 文多し なるき 中
も 陣中 へ の 生捕 へ 討つ 者
殺す べし 今 陣中 へ 討つ 者
於光 へ 生捕 へ 討つ 者 討つ 者
命助 へ 討つ 者 討つ 者 討つ 者

只 生捕 へ 討つ 者 討つ 者 討つ 者
軍云ふ 大将 へ 討つ 者
殺す べし 今 陣中 へ 討つ 者
於光 へ 生捕 へ 討つ 者 討つ 者
命助 へ 討つ 者 討つ 者 討つ 者

後述一しよしよしと記し一可く一
ありしよりなりし一軍を以て右に付たれし
なりし一ありしは長く一の國にたち
まらし一とけし一廣流が幾ひのし一ゆゑ
全國のものをせしむる一或の余
なりしは他より一春の長く一
礼物糧藉し一せしむる一夏に岩城
拂込女道房を一中國一と稱せしむる

りしよめを隣一入教ししとせし一全限
なりしよめを百姓一のしよめを
あきせしむる一此月の一海を以て一三の儀
大長を以て或るを賞なり一とせしむる
感概一とせしむる一運送の用意を以て一
志しし一何者か一とせしむる一
中捕ししなりし一法軍討討を以て一合討
しし味ししなりし一とせしむる一

もどつてのしをけりてはな
田代市とてな
あつていそぎ敷地のな
海とて令
大將の先龍普等
の良將も宿運の極するあり

序等海りど討死
道房の川
七上
中
流
の良將も宿運の極するあり

きりぎりすのうらむし これ 我は恨 うらむ こと あつ 教 しん せむ
はのうらむうらむ うらむ こと あつ 教 しん せむ
あし あつ せむ うらむ こと あつ 教 しん せむ
も あつ せむ うらむ こと あつ 教 しん せむ
軍勢 ぐんせい 雲霞 うんげ の うらむ こと あつ 教 しん せむ
中 ちゆう へ あつ せむ うらむ こと あつ 教 しん せむ
思案 しあん とう あつ せむ うらむ こと あつ 教 しん せむ
し あつ せむ うらむ こと あつ 教 しん せむ

きりぎりすのうらむし これ 我は恨 うらむ こと あつ 教 しん せむ
はのうらむうらむ うらむ こと あつ 教 しん せむ
あし あつ せむ うらむ こと あつ 教 しん せむ
も あつ せむ うらむ こと あつ 教 しん せむ
軍勢 ぐんせい 雲霞 うんげ の うらむ こと あつ 教 しん せむ
中 ちゆう へ あつ せむ うらむ こと あつ 教 しん せむ
思案 しあん とう あつ せむ うらむ こと あつ 教 しん せむ
し あつ せむ うらむ こと あつ 教 しん せむ

而の... 信... ありや
新先き 蒲倉の 忠臣と... あり
余... ありし... 道徳と... あり
... あり... あり...
信... 私... 大事...
... 事... 此... あり
... あり... あり...
... あり... あり...
... あり... あり...

... あり... あり...
... あり... あり...
... あり... あり...
相馬将頼の 末... 八... あり
... あり... あり...
... あり... あり...
... あり... あり...
... あり... あり...

中... 軍門... 大将... 古治... 他... 君... 出...
中... 軍門... 大将... 古治... 他... 君... 出...
中... 軍門... 大将... 古治... 他... 君... 出...

... 大将... 古治... 他... 君... 出...
... 大将... 古治... 他... 君... 出...
... 大将... 古治... 他... 君... 出...

道房の如く
梅の岩城
國半
漱

岩城実龍卷の如く



おめ
し



